

区立施設マネジメント計画に関する ワークショップ

～西宮中学校の改築と老朽化した周辺施設の
更新等に関する検討(第3回)～

令和6年6月22日(土)
杉並区政策経営部企画課
施設マネジメント担当

本日のテーマとゴール

(テーマ) 対象施設を取り巻く状況や建替え時の課題について考えよう！

施設の配置において大切にしたいことを考えよう！

(ゴール) 対象施設を取り巻く状況や建替え時の課題について理解を深めることができた！

施設の配置において大切にしたいことの意見交換ができた！



※第4回ワークショップでは、これまでの意見交換を踏まえた複数の具体的な配置プラン(たたき台)を区から提示する予定です。

ワークショップ全体のスケジュール・テーマ等

	回	日程	テーマ(予定)
情報共有 土台作り	第1回	4月20日(土)	ワークショップの目的、公共施設マネジメントの内容、対象施設について知ろう！
	第2回	5月25日(土)	対象施設を取り巻く状況や建替え時に生じる課題について考えよう！
	第3回	6月22日(土)	対象施設を取り巻く状況や建替え時の課題について考えよう！ 施設の配置において大切にしたいことを考えよう！
具体的な取組案 (プラン)の検討	第4回	7月13日(土)	第1回～第2回で出た意見を踏まえ区が作成した複数プラン(たたき台)をもとに、各プランの良いと思う点、改善が必要な点、解決策等を意見交換しよう！
	第5回	8月31日(土)	第4回の意見や地域意見交換会等の意見を踏まえて区が改善もしくは新たに作成した複数プラン(たたき台)をもとに、各プランの良いと思う点、改善が必要な点、解決策等を意見交換しよう！

※進捗に応じて回数や内容が変更になる場合があります。

○ワークショップ参加者以外の方の意見を聞いていくため、第4回と第5回の間、対象施設の周辺住民等を対象とした意見聴取(ポスティング)【7月中旬～】を実施するとともに、地域意見交換会(オープンハウス)【8月3日(土)】を開催します。

○ワークショップや地域意見交換会、ポスティングによる意見聴取等でいただいた意見を踏まえ、最終的に区が計画(案)に記載する取組案を決定します。

本日(第3回)のプログラム

時間(予定)	内容
14:00~14:10	第3回のテーマ及び前回の振り返り
14:10~14:30	区からの説明 (大宮前保育園、ゆうゆう大宮前館、 コミュニティふらっと、【参考】宮前児童館について)
14:30~15:00	グループワーク① (区からの説明で気になった点等の解消タイム)
15:00~15:10	休憩
15:10~16:25	グループワーク② (施設の配置で「大切にしたいこと」等を考えてみよう!)
16:25~16:30	休憩
16:30~16:50	全体共有 (他の班で出ていた意見の共有)
16:50~17:00	事務連絡

※会の進捗に応じて、時間が変更になる場合がございます。

前回の振り返り

【資料】

○ワークショップニュース

○第2回ワークショップで出た主な意見と区からの回答
～西宮中学校の改築と老朽化した周辺施設の更新等に関する検討～

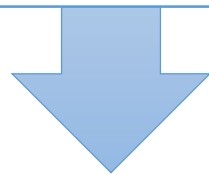
区からの説明

- 大宮前保育園について
- ゆうゆう大宮前館について
- コミュニティふらっとについて
- 【参考】宮前児童館について

大宮前保育園について

令和5年度までの取組

杉並区では、平成30年度に待機児童ゼロを実現しました。ただし、「待機児童」は、認可保育所・認可外保育所のいずれにも在籍していない児童を指すもので、平成30年時点では希望する全員を認可保育所で受け入れることは出来ませんでした。
平成30年度から令和5年度までは、認可外保育所の認可化移行を進め、希望するすべての子どもが認可保育所等に入所できる環境整備に努めてまいりました。

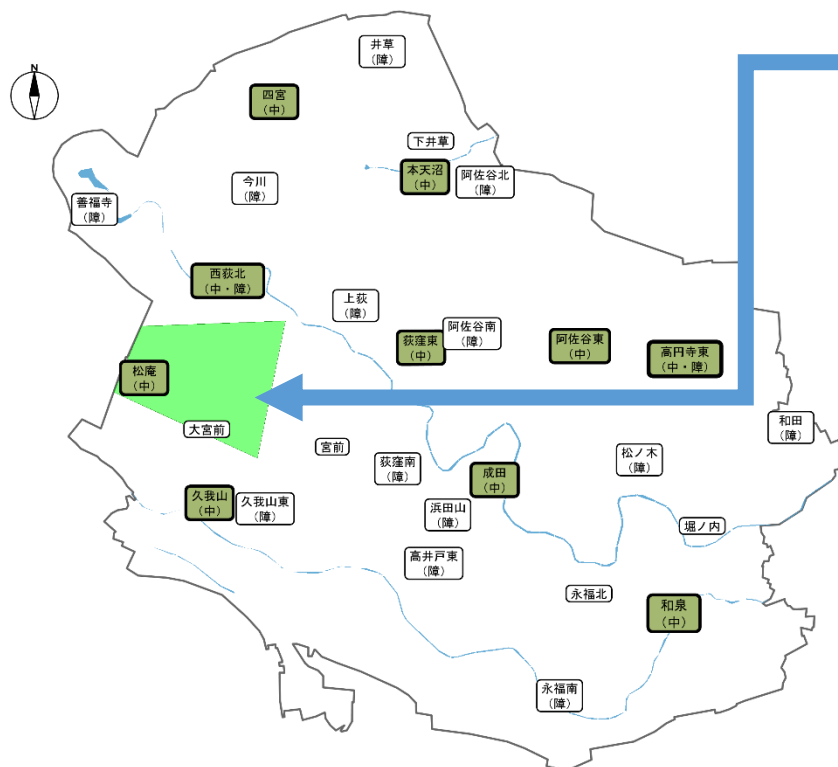


令和5年度以降の方針

現在まで進めてきた保育施設の整備の結果、現時点での保育需要に応えるために必要な保育定員数を確保できていることから、区立園においては当面の間、新規整備を行いません。また、私立園においても当面、数値目標を定めての新規整備は行いません。
この間、保育施設が充実した一方で、急増した私立園の保育の質の維持・向上のため、区立園が中心となって私立園との連携・研修等の支援に取り組むなど、区立園の担う役割は重要性を増していることから、当面の間、民営化や廃止を行わず27園を維持していく方針です。

地域の保育需要と区立園を維持する必要性

地域の概略図



地域の保育需要

年度	定員	児童数	割合
令和3年度	762人	701人	92.0%
令和4年度	762人	703人	92.3%
令和5年度	762人	686人	90.0%

地域の保育施設数(令和6年度)

認可保育所9施設(うち区立2施設)
地域型保育事業所6施設

区立園を維持する必要性

- ・私立園を含む地域の保育園の支援的立場を担っている
- ・増加傾向にある障害児や医療的ケア児の受入れ先としての役割がある
(区は昭和49年に杉並区障害児保育運営要綱を定め、現在まで障害児の受入れの経験が蓄積されている)
- ・今後は支援型短期保育(虐待や育児放棄などの疑いがある児童の受入れ)を行っていく
- ・少子化の進展の一方で共働き世帯数は増加しており、保育の需要は「増加傾向の鈍化」に留まる
- ・将来的な保育需要の縮小により私立保育園の事業撤退が生じた場合の受入れ先を確保する必要がある

保育園の改築にともなう延床面積の増加

近年改築園の延床面積比較

	下高井戸保育園	杉並保育園	阿佐谷南保育園	阿佐谷北保育園	久我山東保育園
改築前	330.81㎡	417.11㎡	612.05㎡	650.95㎡	570.97㎡
改築後	1080.23㎡	841.51㎡	1193.58㎡	1015.28㎡	957.72㎡
増減	+749.42㎡	+424.4㎡	+581.53㎡	+364.33㎡	+386.75㎡
定員	66人→116人	80人→94人	105人→119人	94人→102人	88人→88人

保育園を現在の定員を維持しつつ改築する場合、延床面積は増加する。

必要諸室面積平均

最近改築した新設保育施設(6園)において、面積増となった必要諸室面積の平均は下記となっています。

(バリアフリー法関連諸室)

エレベーター 5.48㎡
誰でもトイレ 5.50㎡
玄関ホール 68.49㎡

(障害児保育のための諸室)

特別室等 51.59㎡

(職員用諸室)

職員休憩室 18.07㎡
更衣室 16.09㎡
職員用トイレ 6.14㎡

- ・バリアフリー法関連諸室は保育園に限らず、どの公共施設においても面積増の要因となる
- ・面積増となる分は他の部屋を縮小するなどの調整が必要となるが保育室は国・都により面積の最低基準が定められており、縮小することができない
- ・障害児保育のための諸室や男性更衣室など、ニーズや働き方の変化も増要因となる

保育定員と面積の関係

各歳児の1人あたりの面積基準(m²)

0歳児室	1歳児室	2歳児室	3歳児室	4歳児室	5歳児室
5.00	3.30	1.98	1.98	1.98	1.98

※東京都児童福祉施設の設備及び運営の基準に関する条例・杉並区零歳児保育実施要綱による

大宮前保育園の定員と基準面積(m²)

	0歳児室	1歳児室	2歳児室	3歳児室	4歳児室	5歳児室	合計
定員	0人	13人	14人	15人	15人	15人	72人
基準面積	0.00	42.90	27.72	29.70	29.70	29.70	159.72m ²
在籍	0人	13人	12人	14人	14人	15人	68人

令和6年4月時点

仮に約50 m² (ゆうゆう館の洋室1程度)の面積増を定員の削減で賄う場合
⇒約20人程度の定員減が必要となり、児童の受入れに支障が生じる。
(待機児童が発生してしまう可能性がある)

※地域の保育需要を踏まえると、定員を削減することは困難

工事期間中の代替場所の確保

代替場所の必要性

- 保育園は保護者の就労等により家庭で保育を受けることが困難な児童を保育する施設であるため、工事期間中も休園せずに、運営を継続する必要があります。
- また仮に、園庭に仮設園舎を建てようとした場合、工事期間中は工事音や振動が発生し、園舎内の活動やお昼寝の時間に支障をきたすことや、敷地が学校の校庭のように広くなく、園児の動線確保が困難となります。



工事期間中に仮設園舎を建設するための代替場所の確保が必要です。

仮設園舎を建設する代替場所の候補

	候補地	現在地からの距離	活用法
ワークショップの 主な対象施設内	宮前図書館、さざんかステップアップ教室 「宮前教室」の用地	直線約250m 道なり約350m (徒歩約5分)	現在の建物を解体し、 仮設園舎を建設
ワークショップの 主な対象施設外	遊び場119番の用地 (南荻窪図書館そば・旧宮前自転車集積所)	直線約1,200m 道なり約1,700m (徒歩約24分)	既存の設備を撤去し、 仮設園舎を建設

ゆうゆう大宮前館について

杉並区基本構想における将来のビジョン

みどり豊かな 住まいのみやこ

○杉並区基本構想が掲げる分野ごとの将来像(抜粋)

- ・「人生100年時代」を自分らしく健やかに生きることができるまち
- ・すべての人が認め合い、支え・支えられながら共生するまち

健康・医療

健康長寿社会に向かう中、住み慣れた地域で、誰もが自分らしく、いきいきと安心して健康に暮らし続けられるまちを目指します。



区民の65歳健康寿命※



現状 (3年)	目標 (11年)
男：83.7歳	男：84.4歳
女：86.8歳	女：88.2歳

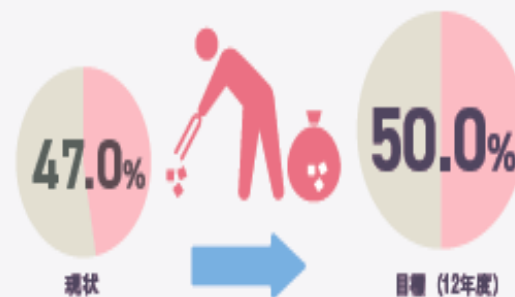
※65歳の方が要介護認定（要介護2以上）を受けるまでの期間を健康と考え、健康でいられる年齢を平均的に表したものを。

福祉・地域共生

世代の差や障害の有無などにかかわらず、支援する側と支援される側の関係を超え、全ての人がお互いに認め合いながら共生できる社会づくりを進めます。



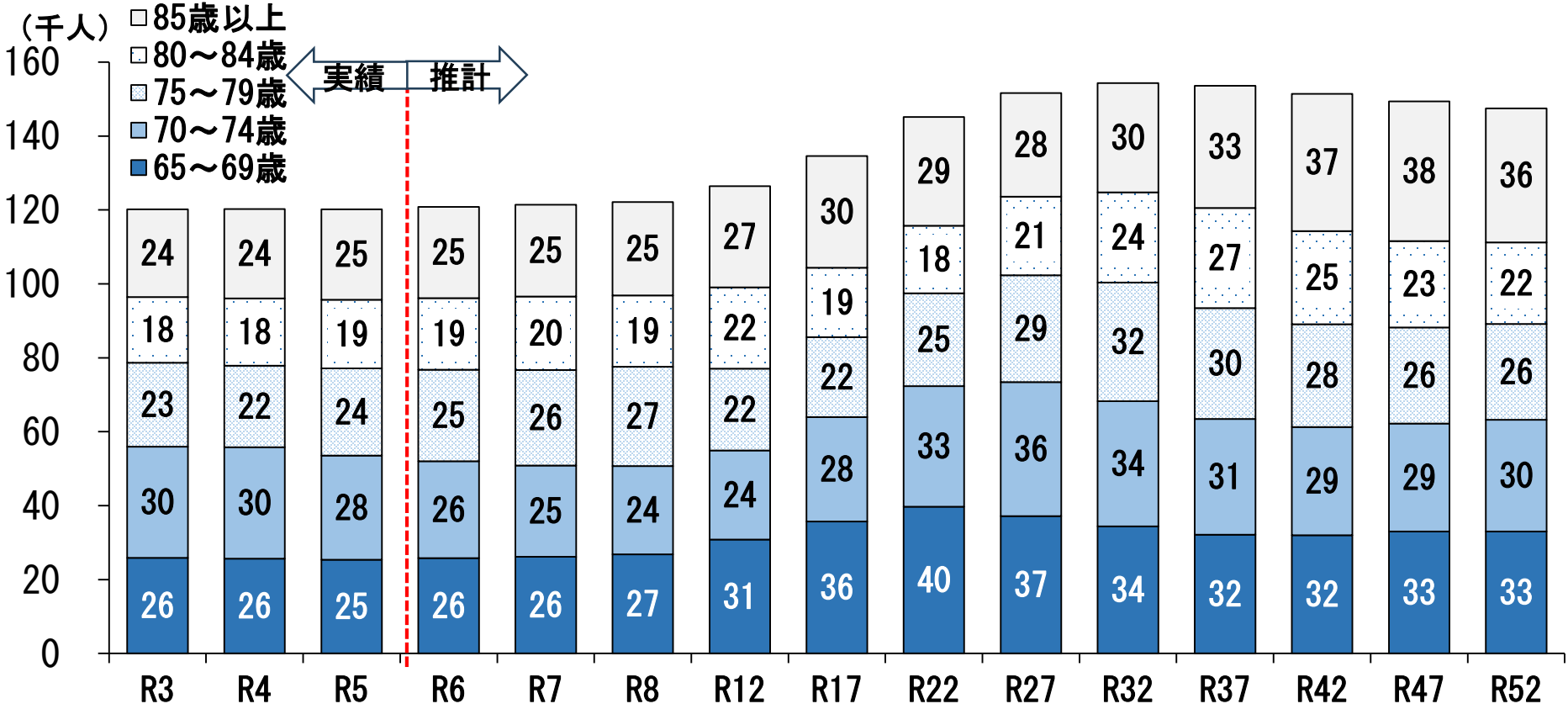
地域活動・ボランティア活動・就労している高齢者の割合



区内の高齢者人口の推移・推計について

○ 区内の高齢者人口は、今後上昇する見込み。

■ 高齢者人口(年齢5歳階級別)の推移・推計

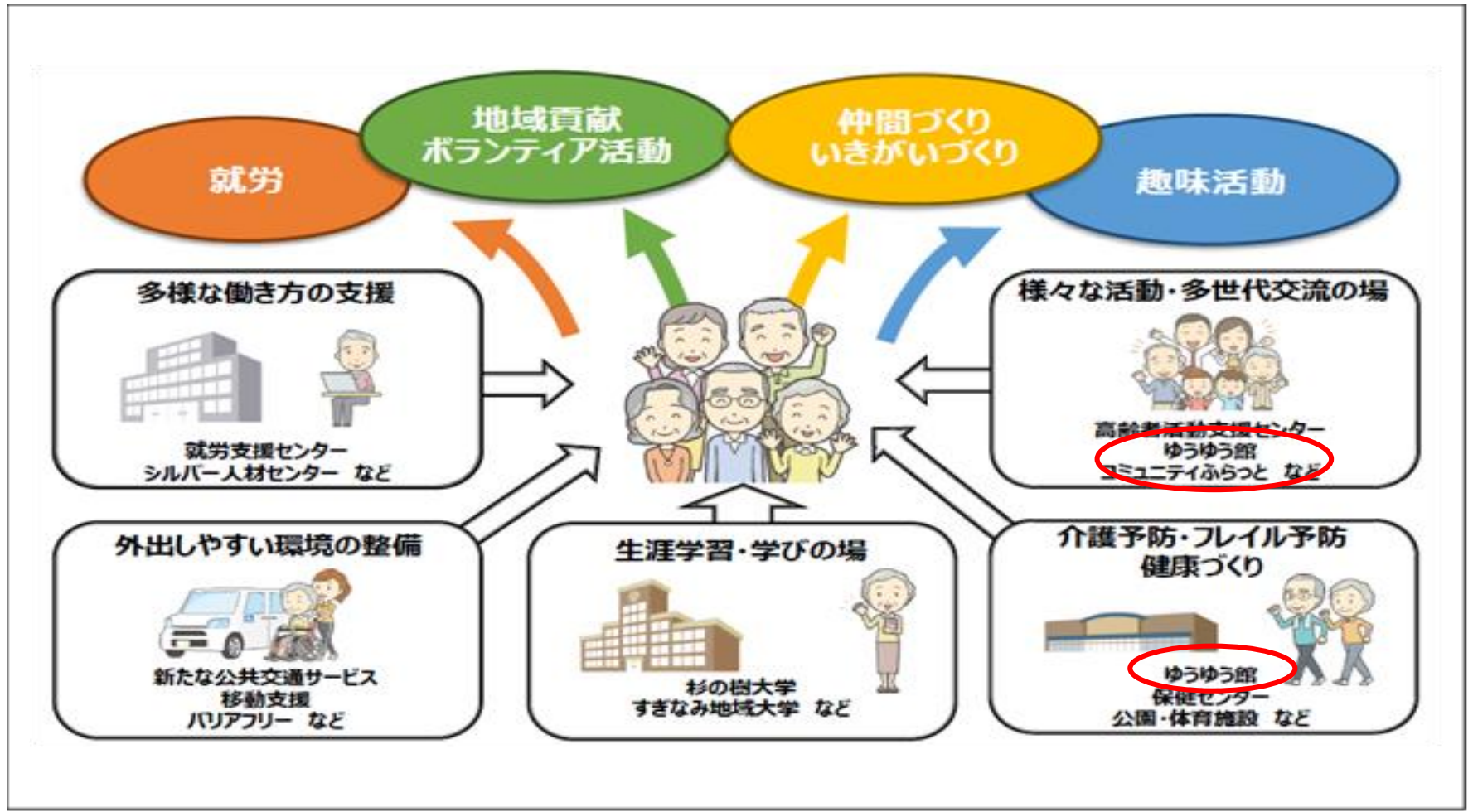


※令和5(2023)年までは1月1日現在の住民基本台帳の実績値、令和6(2024)年以降は推計値

	令和5年	令和52年	増減
総人口	約57.1万人	約49.5万人	約7.6万人減(約86.7%)
高齢者人口	約12.0万人(約21.1%)	約14.7万人(約29.8%)	約2.7万人増(約122.5%)

目指す姿(イメージ)

■多くの元気な高齢者が豊富な知識と経験を生かし、いきいきと活躍する社会(イメージ)



杉並区高齢者施策推進計画

目標

活力ある高齢社会と地域共生のまちの実現

取組方針1 元気高齢者の社会参加の支援と環境整備の充実

取組方針2 高齢者の健康づくり・介護予防の推進

取組方針3 支援が必要な高齢者に対する見守り・支援体制と家族介護者支援の充実

取組方針4 地域包括ケアシステムの推進・強化と認知症施策の推進

取組方針5 介護サービス（在宅・施設）基盤の整備・充実

■ 目指す姿

- 元気で働く意欲のある高齢者が、長年培ってきた知識・経験等を生かしながら、自らの希望やニーズに応じて働き続けています。
- 多くの元気な高齢者が、いきがいを持って、生活を送るとともに地域共生社会づくりの担い手となるなど、いきいきと活躍しています。
- 高齢者や障害者など誰もが安全・安心に外出したり、活動したりすることができる環境整備が進んでいます。

いきがい活動の支援

ゆうゆう館の運営

ゆうゆう館では、高齢者の「憩い」「健康づくり」「いきがい学び」「ふれあい交流」の場として、協働事業実施団体と連携しながら、団体活動の支援や多世代交流事業を含む多様な協働事業を実施します。

コミュニティふらっとの運営

乳幼児を含む子どもから高齢者までの誰もが身近な地域で気軽に利用できる「コミュニティふらっと」の運営を通して、区民・団体の様々な活動や世代を超えた交流・つながりを支援します。

高齢者活動支援センターの運営

高齢者活動支援センターでは、高齢者の福祉の増進を図るため、各種相談や健康増進、介護予防、教養の向上、レクリエーションに関する事業を実施するほか、いきがい活動の支援や、多世代交流の取組を進めます。

長寿応援ポイント事業の実施

長寿応援ポイント事業を通して、高齢者の地域貢献活動やいきがい活動、健康増進活動等への参加を応援します。

いきいきクラブの活動支援

高齢者の知識及び経験を生かし、いきがいと健康づくりのための多様な社会活動を実践するいきいきクラブ及び杉並区いきいきクラブ連合会に対して、助成金の交付や活動PR、活動場所の確保等の支援を行います。

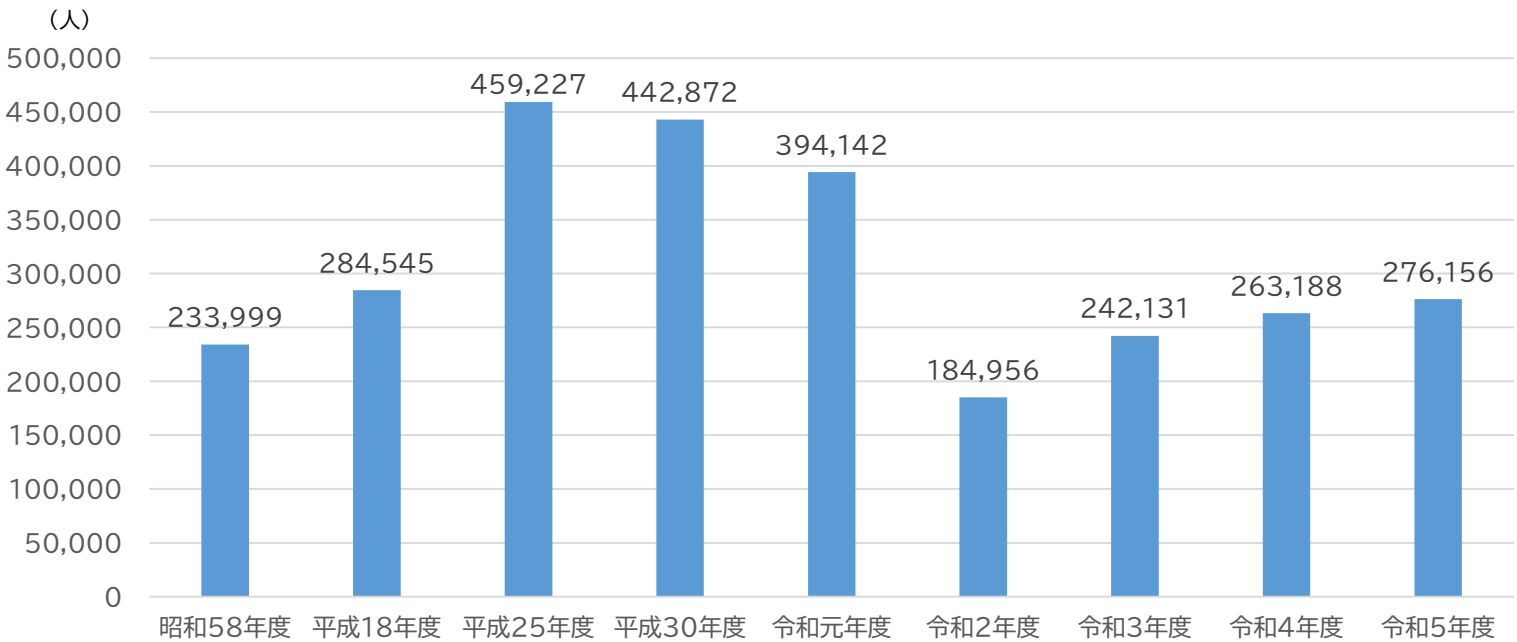
杉の樹大学事業の実施

高齢者の生涯学習・社会参加の支援を目的とし、60歳以上の区民を対象に講座を実施する「杉の樹大学」では、当面の間、高齢者のICT利用を支援するための講座を中心に学びの機会を提供することを通して、シニア世代にデジタルを通じて新たな体験や出会いが生まれ、社会参加の幅が広がっていくよう支援します。

すぎなみ地域大学の運営

すぎなみ地域大学では、幅広い世代の区民が様々な地域貢献活動の担い手として活躍できるよう、必要な知識・技術を学び、仲間を拡げるための各種講座を開催し、地域活動・ボランティア活動への参加を支援します。

ゆうゆう館の利用状況の推移等について



※ 平成18年度(2006年度)に敬老会館からゆうゆう館に名称変更するとともに、通年開館の実施や協働事業を開始。

※ 令和元年度末ごろから、新型コロナウイルス感染症の影響により利用人数が減少。

○高齢者の区立施設の利用に関するアンケート(令和5年6月実施)

(対象)無作為抽出した60歳以上の区民1,400名
 (回答)462人/1,400人(回答率:33%)
 (設問)趣味や学習、運動等の活動を区立施設で行っているか。

ゆうゆう館	区民集会所、区民会館	コミュニティふらっと	その他区立施設	区立施設を利用していない
16.5%	10.0%	3.1%	20.2%	50.1%

○ゆうゆう館全体の登録団体数及び延べ団体登録者数:875団体 9,330人(令和6年度上半期分)

施設の更新に伴う課題

○現園舎の敷地で現在の定員数を維持した保育園を改築する場合、
ゆうゆう大宮前館は現在と同規模の面積を確保することが難しく、
別途、高齢者の活動場所の確保が必要となる。

○部屋や時間帯により稼働率にばらつきが生じている。

稼働率(茶室等を除く)

ゆうゆう大宮前館 (令和4年度(2022年度))

部屋名	施設全体	9~12時	13~17時	18~21時
洋室1	48%	69%	76%	17%
洋室2		65%	73%	1%
洋室3		63%	47%	1%

稼働率を踏まえた、
活動場所の確保が必要

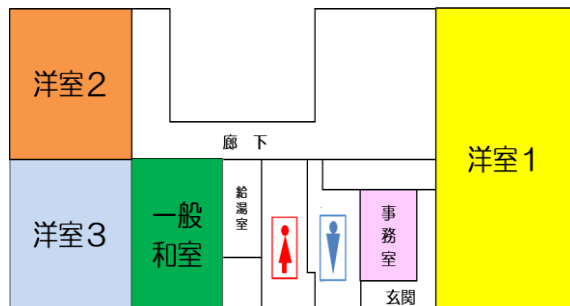
ゆうゆう大宮前館利用者の活動場所を
周辺施設の状況も踏まえながら確保していく必要がある。

ゆうゆう大宮前館の概要

○築年数、施設面積、部屋数 など

築年数	施設面積	洋室1	洋室2	洋室3	構造
59年	199.44㎡	57.9㎡	22㎡	23.7㎡	鉄筋コンクリート造 エレベーター未設置

○平面図



洋室1



洋室2



洋室3



○活動団体数: 37団体(令和6年度上半期)

団体人数: 391人(令和6年度上半期)

○利用者の傾向

- ・70代、80代の利用者が多い(令和5年度)
- ・団体利用の登録は周辺住民(※)が多い(約65%)
※施設から半径500m圏内の丁目にお住いの方

60代	70代	80代	90代以上
11.4%	37.9%	45.8%	2.1%

※小数点第3位四捨五入

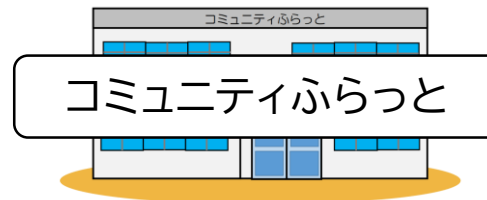
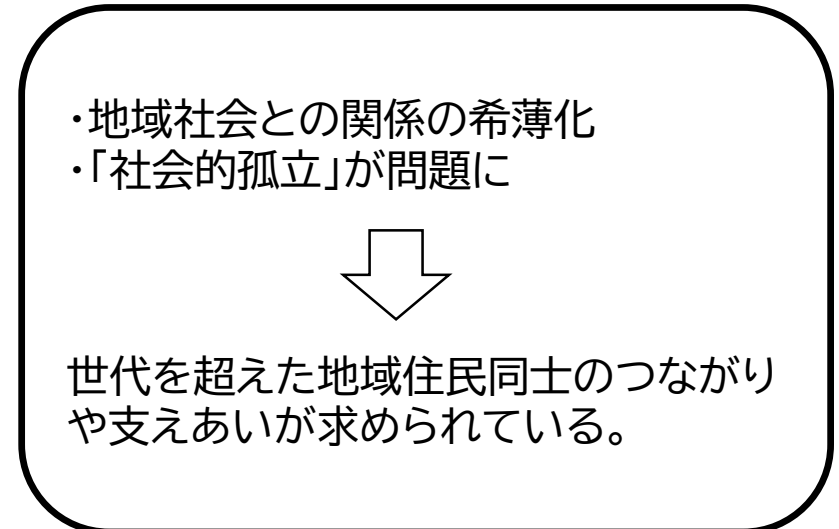
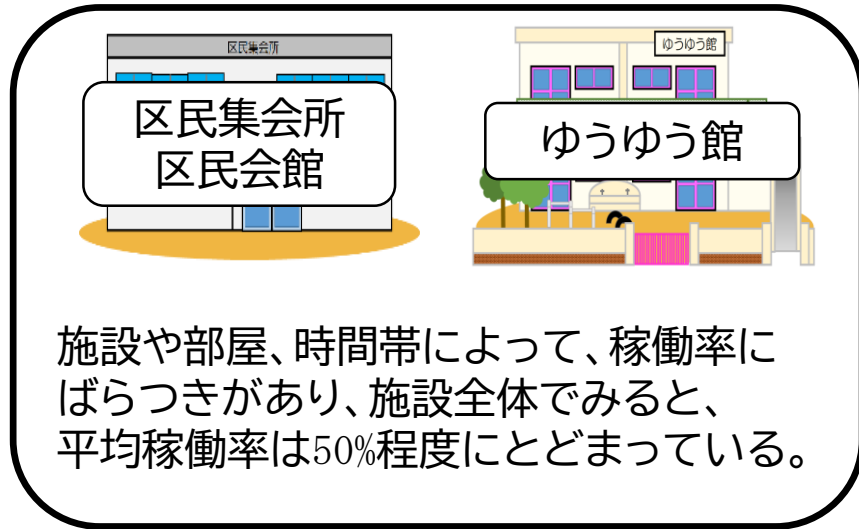
○延べ利用人数の推移(ゆうゆう大宮前館)

令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
9,442人	5,155人	7,149人	7,617人	8,289人

コミュニティからつとについて

コミュニティふらっと設置に至った経緯

○施設再編整備計画に基づく区民集会所やゆうゆう館等のコミュニティふらっとへの再編



施設の有効活用や世代を超えた地域住民同士のつながりを促進する観点から、新たな地域コミュニティ施設である「コミュニティふらっと」へと再編整備する取組を進めてきた。

※現在までに、阿佐谷、東原、馬橋、永福、成田、方南の6施設を開設。

今後、新たに2施設が開設する予定。

「コミュニティふらっと」とは

『乳幼児親子を含む子どもから高齢者まで、誰もが身近な地域で気軽に
利用でき、世代を超えて交流・つながりが生まれる新たな地域コミュニティ
施設』

集会室などの貸室は、町会・自治会の活動や、文化や趣味等のグループ活動に利用できるほか、講座や多世代交流イベントへの参加を通じて、身近な地域における世代を超えた交流や、コミュニティづくりができます。

ラウンジは、予約なしに誰でも利用することができるスペースです。地域の方々のちょっとした打合せはもちろん、読書や勉強、飲食しながらおしゃべりなど、様々な利用ができます。

コミュニティふらっと(標準規模)のイメージ



施設の規模に応じて、地域の発表会や多世代交流イベントなどに活用できるように、集会室よりも広さのある多目的室を設置します。

ゆうゆう館を利用している団体の活動場所を確保することができるよう、一部の部屋・時間帯に高齢者団体優先枠を設け、一般利用者等とのタイムシェアをしていきます。

受付窓口では、高齢者への声掛けや日常の相談なども行い、地域の皆さんとゆるやかにつながる施設とします。

近隣に子ども・子育てプラザ等がない地域では、乳幼児親子が予約なしに気軽に利用できるスペースである乳幼児室を設置します。

コミュニティふらっと館内の様子

○ラウンジの一例



グループでの歓談などで利用できるよう丸テーブルを用意

個人での利用ができるよう、カウンター席を用意



コミュニティふらっとで実施するイベント等

施設の設置目的を達成するため、地域の団体や公共施設、住民の方などとも協力し、講座やサロン、おまつり(多世代交流イベント)を実施している。

○多世代交流イベントの様子



コミュニティふらっとで実施している講座の例

事業名	内容
ヨガ講座(夜間講座)	仕事帰りの方も参加できるヨガ
東原Pタイム	学校帰りにふらっと遊べる子どもたちの居場所
目からうろこのリトミック子育て講座	親子リトミック・子育ての不安などを解消するプログラム
寺子屋「学ぼう」	現役大学生などが中学生の学びを支援
ふらっと阿佐谷*美術講座	美術評論家による講座
ゆうゆうフラ	生演奏にあわせて踊るフラダンス



ゆうゆう館からコミュニティふらっとへの機能継承①

「高齢者団体優先枠」とは・・・

- ゆうゆう館を利用している団体の活動場所を確保することができるよう、一部の部屋・時間帯に「高齢者団体優先枠」を設け、一般利用者に先駆けて申し込みができる仕組みとしている。
- 1団体当たり月に8枠(一体使用の場合は2枠という扱い)までは使用料を免除。

なお、「高齢者団体優先枠」を振らない部屋・時間帯も設けることにより、一般利用者とのタイムシェアを図っている。

高齢者団体優先枠のイメージ

	午前 (9時～12時)	延長	午後1 (13時～15時)	延長	午後2 (16時～18時)	延長	夜間 (19時～21時)
部屋A	優先枠		優先枠		優先枠		優先枠
部屋B	優先枠		優先枠		優先枠		
部屋C							
部屋D							

埋まらなかった枠は、一般利用者の枠になります。

このほか、「高齢者団体優先枠」の申込等は施設の窓口で受け付けることや、半期ごとに抽選申込を行うことなど、ゆうゆう館の運用方法を一部引き継いでいる。

ゆうゆう館からコミュニティふらっとへの機能継承②

○ゆうゆう館からコミュニティふらっとへ移行した団体数

施設名	団体数	移行した団体数	割合
ゆうゆう阿佐谷館 →コミュニティふらっと阿佐谷	105	92	87.6%
ゆうゆう阿佐谷北館 →コミュニティふらっと東原	30	27	90.0%
ゆうゆう馬橋館 →コミュニティふらっと馬橋	25	25	100%
ゆうゆう浜田山館 →コミュニティふらっと成田	29	18	62.1%
ゆうゆう方南館 →コミュニティふらっと方南	27	26	96.3%
合計	216	188	87.0%

移行しなかった理由として、「コミュニティふらっとが利用していたゆうゆう館より遠くなった」、「団体のメンバーの高齢化等により、このまま活動することが難しくなっていたので、これを機会に活動をやめた」、「コミュニティふらっとの部屋がゆうゆう館より狭くなり、活動できなくなった」などの声をいただいている。

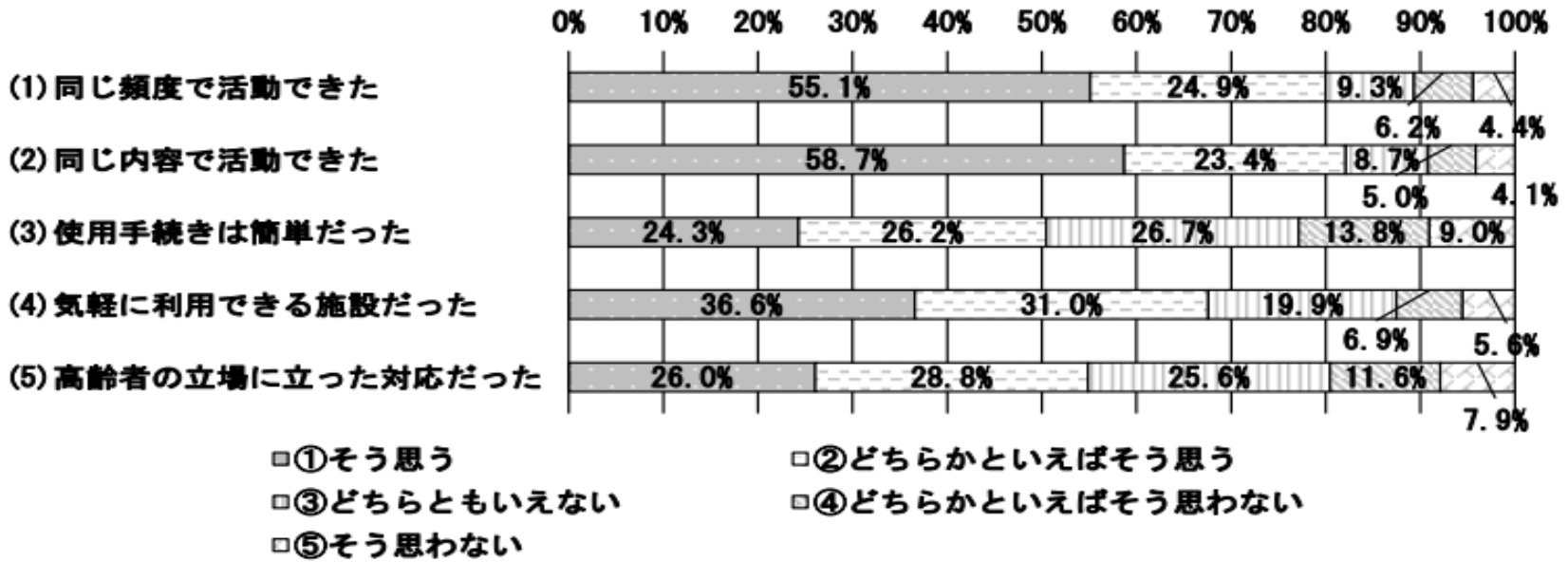
ゆうゆう館からコミュニティふらっとへの機能継承③

○コミュニティふらっと利用者アンケートの実施

対象	コミュニティふらっと利用者のうち、コミュニティふらっとを利用する前にゆうゆう館を利用していた高齢者団体の所属者
調査期間	令和5年3月8日～3月31日
回答者数	289人

ゆうゆう館から「コミュニティふらっと」へ活動拠点が移ることについて、「ゆうゆう館と同じ頻度・内容で活動できるのか」、「使用の手続きは簡単に行えるのか」、「今までどおり気軽に利用できるのか」などの不安を感じる利用者が多かった。

⇒実際にコミュニティふらっとへ移行した後、どのように感じたか・・・？



コミュニティふらっと利用者の声

対象	コミュニティふらっと利用者(高齢者団体所属者含む。)
調査期間	令和5年3月8日～3月31日
回答者数	626人

【問】「コミュニティふらっと」は、誰もが身近な地域で気軽に利用でき、世代を超えて交流・つながりが生まれる施設、として運営しています。(1)～(3)の各項目についてどのように思うか選択してください。(各項目1つずつ選択)



□ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない □ そう思わない

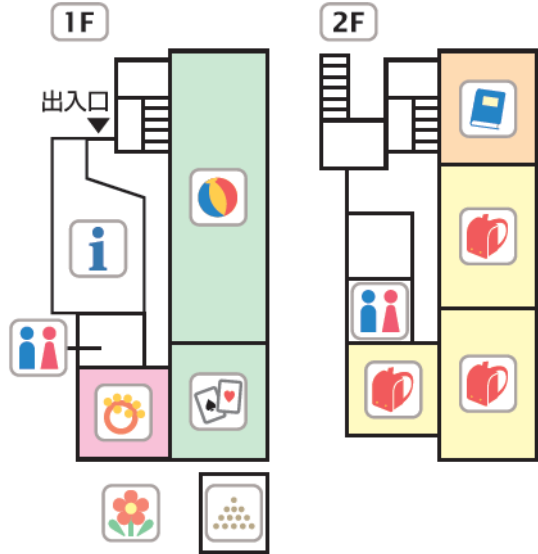
【参考】宮前児童館について

宮前児童館（宮前学童クラブ併設）の概要

施設情報

開設年月日	昭和45年(1970年)4月15日	
延床面積／敷地面積	458.06㎡／720.90㎡	
年間 利用者数 (令和5年度 (2023年度))	乳幼児	1,308名 (1日当たり:5.9名)
	小学生一般来館	4,243名 (1日当たり:19.2名)
	学童クラブ	16,320名 (1日当たり:55.7名)
	中高生	131名 (1日当たり:0.6名)
	保護者	4,957名 (1日当たり:22.4名)
学童クラブ 最大受入数／登録者数 (令和6年(2024年)4月1日時点)	93名／93名	

平面図



- ### 見取り図凡例
- 遊戯室
 - 事務室 (受付)
 - 集会室・プレイルーム
 - 音楽室
 - 図書室
 - 図工室
 - 乳幼児室
 - 乳幼児コーナー
 - 中高生ルーム・コーナー
 - 多目的室
 - 相談室
 - 会議室
 - 学童クラブ室
 - トイレ
 - バリアフリートイレ
 - 庭
 - 砂場
 - 飲食コーナー
 - ベランダ
 - 屋上

事業の概要

- 主な事業(0歳から18歳の児童のために)
 - ・子どもの遊びや自主活動の応援
 - ・さまざまな体験プログラムの実施
 - ・乳幼児親子のひろば～ゆうキッズ～ 等
- 「地域子育てネットワーク事業」

地域行事や子育て講演会・講座など、地域ぐるみで子育てを応援する活動を行うとともに、子育て中の保護者や区民の方が企画・参画する取組を進めています。
- 宮前児童館の特色

障害児重点館としているほか、高二小久我山学級との交流事業等を実施しています。

宮前児童館を建て替える場合の課題

建て替える場合の課題

- 現地で建て替える場合、工事期間中に休館が必要
仮に宮前児童館を現地で建て替える場合は、現在の建物の解体工事や新たな建物の建設工事に伴い、児童館の休館期間が生じます。



現地改築の場合は学童クラブの代替場所の確保、移転改築の場合は移転用地の確保が課題となります。

- 「(仮称)杉並区子どもの居場所づくり基本方針」について
今後の子どもの居場所づくりの基本的な考え方となる「(仮称)杉並区子どもの居場所づくり基本方針」を令和6年度(2024年度)中を目途に、策定することとしており、児童館の今後の方向性についてはこの基本方針で明らかにすることとしています。宮前児童館についても、今後示される基本方針の素案などを基に検討していきます。

より良い子どもの居場所づくりの推進に向けた取組や検討状況については、区公式ホームページで公表しています。

<https://www.city.suginami.tokyo.jp/guide/kusei/kodomonokenri/kodomoibasyo/index.html>



グループワーク①

大宮前保育園、ゆうゆう大宮前館、
コミュニティふらっと、宮前児童館の説明で
良いと思った点・疑問点等をグループ内で
意見交換しましょう！

(30分)

休 憩

グループワーク②

○これまで話し合ってきたことを踏まえ、「施設の配置で「大切にしたいこと」とその理由」を考えてみましょう！

○考えたことをグループ内で意見交換しましょう！

(75分)

グループワーク②

このグループワークでは、ワークシートを使用します。

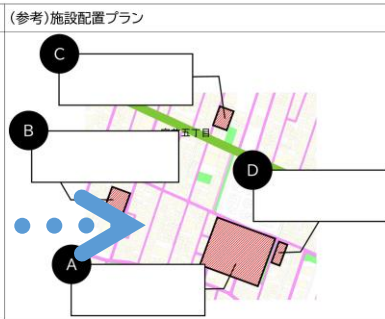
これまで話し合ったことを踏まえ…
「施設の配置で大切にしたいことと
その理由」を記入

それぞれの用地に配置する施設を
記入

※最終的な配置を書いてください(休館中
の仮設等は考えないでOKです)

配置を考えていて困ったことがあれば
記入

ワークシート

施設の配置で「大切にしたいこと」とその理由 例:コンセプトの親和性が高い○と△を複合化する 全体最適の観点から、多世代が使える集会施設を学校の近くに	(参考)施設配置プラン 
	配置を考えるに当たって困ったこと(もしあれば) 例:用地が足りず、□をこのエリアに配置できなかった 高齢者専用施設が良いけど、他の年代の人が集まれる場がない 等

【施設名】

- ・西宮中学校
- ・宮前図書館
- ・さざんかステップ
アップ教室「宮前教室」
- ・大宮前保育園
- ・ゆうゆう大宮前館
- ・宮前児童館
- ・コミュニティふらっと等の
集会施設

⇒作成したワークシートをグループ内で共有しましょう

ワークシートを作成するに当たって… (これまでのおさらい)

○全体について

用地よりも施設の数が多いため、複数の施設を1つの用地に配置する(複合化)など、工夫が必要となる場合があります

○それぞれの施設について

西宮中学校	教育環境を確保した上で、地域の拠点となる地域に開かれた学校づくりが求められています
宮前図書館	現地で改築する場合は、建築基準法により現在よりも建物の規模を小さくする必要があります
さざんかステップアップ教室 「宮前教室」	複合化には組み合わせる施設等の一定の配慮が必要です
大宮前保育園	現在の定員を維持しつつ改築する場合、バリアフリー対応等により、延床面積は大きくなります
ゆうゆう大宮前館	保育園を現地改築する場合、現在と同規模の面積を確保することは困難です(他の場所で活動機会を確保していく必要があります)
宮前児童館	現地で改築する場合は、学童クラブ工事期間中の代替場所が必要です

グループワーク② 例

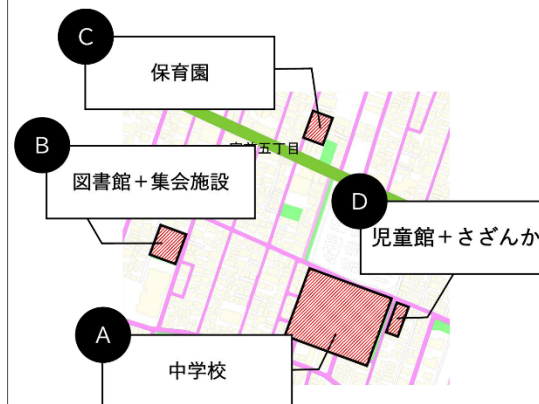
ワークシート

施設の配置で「大切にしたいこと」とその理由

子どもの居場所を大切に！

- ・ 中学校、保育園は単独にして、それぞれの居場所を確保する
- ・ 学校以外の自由な子どもの居場所として児童館とさざんかを複合化する
- ・ 図書館と集会施設を複合化する
- ・ 集会施設はゆうゆう館の機能を継承しつつ子どもから大人まで使えるようにする

(参考)施設配置プラン



配置を考えるに当たって困ったこと

例:用地が足りず、□□をこのエリアに配置できなかった
高齢者専用施設が良いけど、他の年代の人が集まれる場がない 等

- ・ さざんかステップアップ教室と児童館を一緒にするとそれぞれが狭くなる？



子ども達がそれぞれの居場所でのびのびと過ごせるようにしたい！

グループワーク② 例

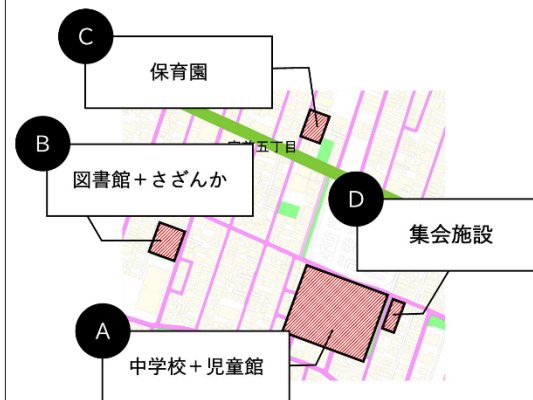
ワークシート

施設の配置で「大切にしたいこと」とその理由

皆が交流し、活動する場をつくる

- ・地域の拠点となるような、多世代が使える集会施設を単独で建てたい
- ・集会施設を学校の近くに配置して交流しやすいようにする
- ・図書館、さざんか、保育園は既存の場所で

(参考)施設配置プラン



配置を考えるに当たって困ったこと

例:用地が足りず、□□をこのエリアに配置できなかった
高齢者専用施設が良いけど、他の年代の人が集まれる場がない 等



幅広い世代が活躍したり交流したり
できる地域でありたい

休 憩

全体共有

他のグループでどんな意見が出ていたのか、
発表します！

(20分)

事務連絡

○アンケートの提出について

【インターネット】6月30日(日)までに入力

【紙】本ワークショップの最後に回収

○次回のワークショップについて

【日時】令和6年7月13日(土) 午後2時から

【会場】高井戸第二小学校 ランチルーム

【内容】これまでの意見交換を踏まえた施設の配置
プランの比較・検討

○ポスティングによる意見聴取及び地域意見交換会(オープンハウス)の実施

ワークショップ参加者以外のご意見も聴いていくため、以下の取組を実施

【ポスティング】令和6年7月中旬ごろから施設周辺の住戸にチラシを各戸配布

※区公式HPに、ワークショップで使用した資料の掲載や意見募集フォームを設置

【オープンハウス】令和6年8月3日(土) 午後2時から(西宮中学校)